

議会雑感

東日本大震災に思うところ

東日本大震災に見舞われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。あれからはや一ヶ月余が過ぎようとしていますが、未だ原発は予断を許さない状態が続き、放射能被害の風評と共に本当にご苦労されています。一刻も早い復興に向けた希望が見出されるよう祈るばかりです。

翻って、今回の大災害を自分に置き換えてみたならどうであるか、との思いが募ってまいります。

今回のようにひとつの町が根こそぎ無くなってしまふ事態に、議員としてもし私があの場合にいたらどのような行動を取るであろうか、地域社会の再建に向け住民と行政の間で、どのような役割を果たせるのかと考えさせられます。

報道では、警察や自衛隊、消防などの機関はもちろんですが、住民の救済に奮闘されている市町村長や職員、医療関係者や消防団員などの懸命な姿が伝わってきます。しかしながら議会議員の姿が見えないのは報道に隠れているのか、同じ職にあるものとして気がかりなことです。

議員は、地域に根ざし地域住民の顔を巡らせる事ができるわけですから、災害地の議員諸氏はどのような思いでいるのかと推察します。

今回の事態を踏まえ、早晚発生すると言われる東海沖地震や36年災害のような大型台風などの有事に対し、議会と議員の危機管理とは如何なるものなのかを研究してみたいとの思いを強くしたところです。

飯田市議会は是々非々か

議会は市長部局から提案される案件に対し賛否を問うところです。よく言われる議会の与党化の指摘がありますが、なんでも飲んでしまうような御用議会ではなんのための議会なのかわかりません。提案された事項をより良いものにするために意見を述べ、互いに理解が得られなければ反対の意思表示をすることが議員に求められている是々非々の姿勢です。

飯田市議会にはいくつかの議員のグループがあります。グループは会派と呼び、政党グループと労働団体グループ、そして無所属のグループなどに分かれています。現在政党内派 2、労働団体 1、無所属 2 の計 5 つの会派が有って、是々非々の考え方にも温度差があります。

私の所属する会派は「みらい」と称する会派ですが、職員からはこの是々非々を最も先鋭的に論じている会派と言われます。国政に関わることや福祉に反応する会派もありますが、住民に身近な課題に対し「ちょっと待て」「もう少し考えてみよう」「もっといい案はないか」「それはおかしい」「反対」を明確に言う

のは私の所属する会派です。

「是」は易く、「否」を論ずるは難です。しかしながら今年も「是、否」をしっかり論じてまいりたいと思うところです。

政策調査、公報担当 原 和世